

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

令和3年6月29日

農業技術課 広域普及指導センター

1 生育状況（実証ほデータ）

近年に比べて、草丈、葉色は並み、茎数はやや少なく、葉齢はかなり遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや長く、茎数、葉色は近年並みとなっている。

今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期はそれぞれ近年より4日程度遅い7月17日頃、8月8日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（6月29日 栽培実証ほ）

年次または 試験内容	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD		
R3	5/16	42.3	25.2	545	9.9	4.3	39.7	(7/17)	(8/8)
R2	5/15	50.3	25.9	572	10.8	4.4	39.8	7/14	8/7
近年	5/14	44.4	27.7	597	10.5	4.4	40.7	7/13	8/4
前年比・差	1	84	97	95	-0.9	-0.1	-0.1	(+3)	(+1)
近年比・差	2	95	91	91	-0.6	-0.1	-1.0	(+4)	(+4)
良食味栽培・試験区	5/21	38.7	27.2	598	9.2	4.4	40.7	(7/22)	(8/13)
密苗栽培・試験区	5/16	41.2	25.7	592	9.9	4.3	41.2	(7/17)	(8/8)

注1) R3：生育観測ほ、良食味栽培・対照区、密苗栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

近年：H29～R2の平均、良食味栽培・試験区及び密苗栽培・試験区：実証ほ4か所の平均

注2) 本年の幼穂形成期及び出穂期は予測値

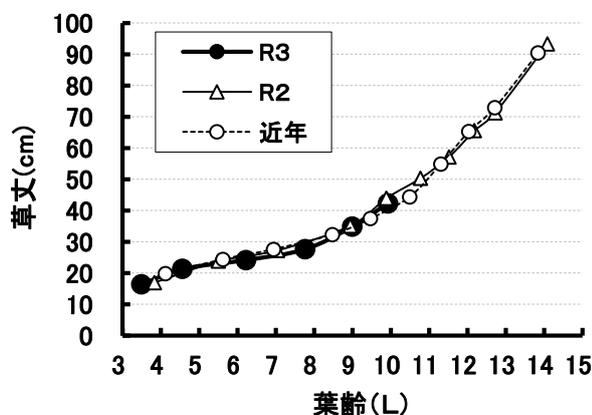


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

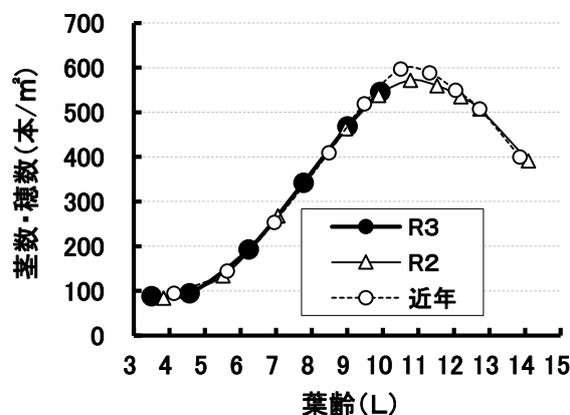


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

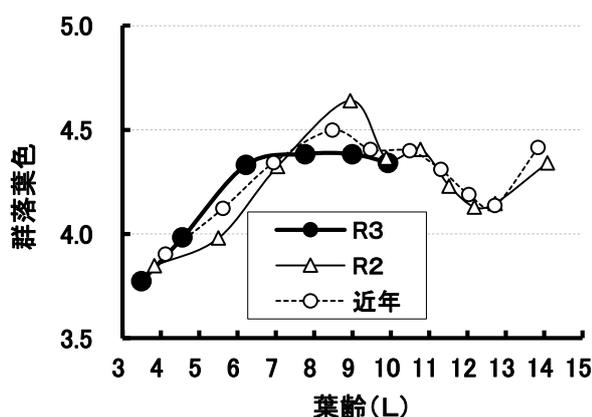


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

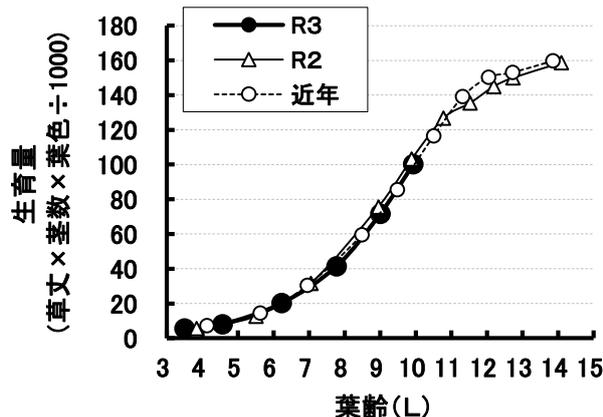


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

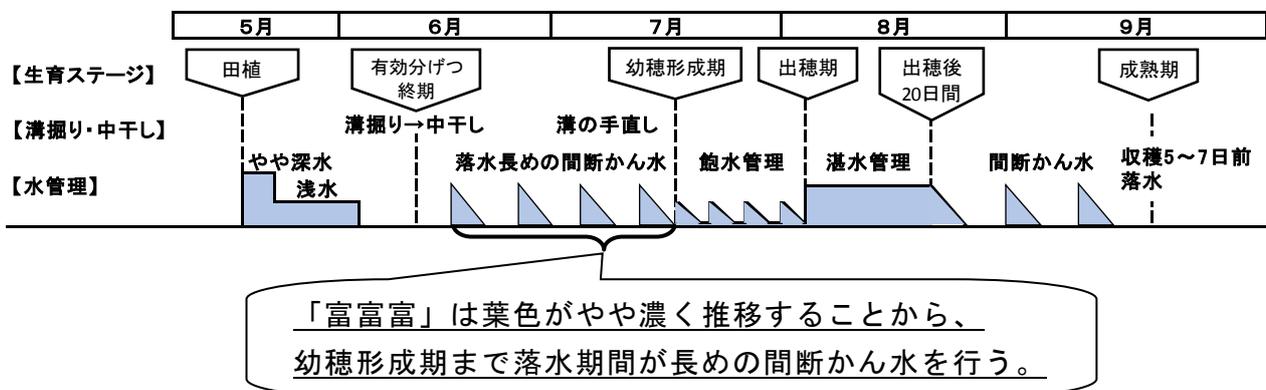
2 当面の技術対策

- ・ 中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導する。
- ・ 幼穂形成期以降は、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 分施栽培における穂肥は、1 回目を幼穂形成期の 7 日後頃に窒素成分で 0.75～1.0kg/10a、2 回目を 1 回目の 7 日後に窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

(1) 水管理

- ・ 中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3 cm 程度の土壌硬度に誘導する。
- ・ 籾数の適正化のため、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導する。
- ・ 幼穂形成期以降は、稲体の活力を維持するため、飽水管理を行う。

<水管理のイメージ>



(2) 分施栽培における穂肥施用

穂肥は 1 回目を幼穂形成期の 7 日後頃(幼穂長 15mm 程度)に窒素成分で 0.75～1.0kg/10a 施用し、2 回目を 1 回目の 7 日後に 1.5kg/10a 施用する。

なお、幼穂形成期の茎数が 580 本/㎡以上、または SPAD 値が 35（群落葉色 4.0）以上の場合、1 回目の穂肥を施用せず、幼穂形成期の 14 日後頃に窒素成分で 1.5kg/10a を確実に施用する。

表 2 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	㎡茎数 (本/㎡)	SPAD	群落葉色	生育量	
				SPAD	群落葉色
62	580	35	4.0	125	140

注) 生育量 SPAD : 草丈×茎数×SPAD÷10,000

群落葉色 : 草丈×茎数×群落葉色÷1,000

(3) その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるよう留意する。